

豊かな表情

豊かな表情で伝えることにより、好感度が増すことから、おいしさ表現を思い通りに伝えることができます。つまり、言葉で伝えるのと、表情で伝えるのは車の両輪のようなものであり、表情をかなり重視する必要があります。

また、聴く人にとって表情は、言葉より楽に情報をキャッチできる心地よさがあります。「目は口ほどに物を言う」という言葉もあります。身振り手振りとしょんがら笑顔で接すると、おいしさ表現が一層効果的になると思います。

① 顔の表情

心の状態が顔に現れるため、おいしかった時に自然に出てくる表情をそのまま伝えます。

世の中のおじさん達には、顔の表情が乏しい人も多いです。だが、やはりおいしさを伝えるのですから、子供のときのような豊かな表情をしてほしいです。恥ずかしいほど表情豊かにしたと思っても、相手にはそれほどオーバーな表情には映らないので案ずるには及びません。



ア 目つき

話をするときは、相手の目を見ます。そして、上瞼を上げて目を大きく開けたり、普通に戻したりするだけで、生き活きた目つきになります。基本的には、微笑んだり笑ったりしたときの目つきでいいです。

イ 視線

目をじっと見つめると相手が緊張してしまいます。そのため、鼻から唇辺りに視線をもっていきます。一対一のときは相手の唇辺りにもっていき、ポイントの部分では目を合わせます。

ウ ロ元

明るい感じの人は、口を閉じていても、口の両端が上向きになっています。心の状態が明るいので、相手の心も自然と開放的になり、会話もスムーズになります。への字口ではなく、なるべく微笑んだりしたときのように緩んだ口元にしていれば好感度が増します。



エ 顔全体

口の両端に加え、頬も持ち上がっている満面の笑みで伝えれば、相手は気持ちよく受け取ってくれます。同様に、うっとり、あるいは幸せそうな顔を見れば十分に相手は察知してくれます。

また、「何でこんなにおいしいの」と言う驚きの表情、あるいは「自分では、これ程のおいしさはつくれない」と言う呆然とした表情もおいしさを伝える立派な表現です。

② 体の表情

おいしいと自然に出てくる体の表情があります。控えめな人にはボディアクションはなかなか難しいですが、おいしさを伝えるには重要になります。体全体でおいしさを表現すれば、言葉が少なくてもおいしさが十分に伝わります。

ア 手・腕

物事をうまく処理する能力を手腕と云います。それほど手と腕は重要な役割を果たします。料理が運ばれて来た時に、盛付けが素敵なら、あるいは良い香りがあれば両手を広げてワーとした動きになります。

定番のしぐさには、親指と人差し指で輪をつくって相手に示す、あるいは、親指を立て他の指は握って相手に示すことがあります。凄くおいしければ、その手が前に勢いよく突き出されるような動作になります。手をグューと握ってヨーシと

いう表情で突き出しても良いです。思わず笑ってしまうようなおいしさでしたら素直に笑えば良いです。

イ 体全体

笑顔、手や腕の動き以外にも表現の仕方があります。おいしさに納得したかのごとく、うんうんと首を縦に振ることや、逆に、ヤァー凄い、と言いながら首を横に繰り返し振ることもその一つです。

前かがみになったり、自然な姿勢に戻したりして生き活きた表情をする。テーブルに肘をつき目を細めてうっとりした表情をする。ふんぞり返って満足だ一、という満足感一杯の表情をする。身体全体からにじみ出てくるうっとり感や満足感を全部合わせて幸せな表情をする。と云ったボディアクションもあります。

その他、食べる速さも表情のひとつではあります。おいしければ、おいしいなりにある程度の速さで食べ、一切食べ残しがないように食べます。おいしくても食べ残しがあれば、口ほどにもなくジェスチャーなのだ、と思われてしまう可能性があります。



料理のおいしさだけでなく、食事中に可笑しいことでもあれば、それをネタにユーモラスな表情で愛想よくふるまえば、料理全体のおいしさもアップします。

③ 声の表情

声にも表情があります。同じ言葉を使っても、どのようなトーンで伝えるかによって相手の受け取り方も変わってきます。

声の種類には、明るい声・渋い声・どすのきいた声・弾んだ声・どんよりした声・沈んだ声・ハスキーな声・透き通るような声、大きな声・小さな声・細い声、

高い声・低い声など、多様な質の声があります。また、話し方のテンポによっても表情に違いが出ます。

おいしさを伝える面からは、声の表情は、感謝を込めて、明るく大きく弾んだ声で腹から出すように努めます。伝える人の表情が豊かになると、相手の表情も豊かに輝きを増します。それがまた伝える人の勢いにもつながり、好ましい連鎖となります。

